

尿蛋白分画		30000			
		担当部署			
U-EP		一般			
<b>検査オーダー</b>					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
<b>検体採取・搬送・保存</b>					
患者の事前準備事項		該当なし			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
	検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	新鮮尿	2 3スピッツ	なし	10	mL
2	蓄尿	22 蓄尿	防腐剤、尿量インジゲーター	10	mL
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 血液など異物の汚染がひどい尿 2) バーコードのない検体 3) 量不足 4) 蛋白濃度が 30mg/dl 以下の検体 5) 材料違いの検体			
保管検体の保存期間		凍結保存 14 日 (追加検査については検査室に要問合せ)			
<b>検査結果・報告</b>					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～7 日				
生物学的基準範囲		該当なし				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		特記事項なし				
臨床的意義		<p>正常および異常尿蛋白成分の大部分は血漿および尿細管分泌に由来するもので、正常尿はアルブミンのほか、ムコタンパク、<math>\alpha 1</math> アンチトリプシン、トランスフェリン、I g G、免疫グロブリンのフラグメントや L 鎖などを微量に含んでいる。糸球体性タンパク尿では平均 60%のアルブミン、トランスフェリン、I g G などのほか、糸球体基底膜の障害が進むとマクログロブリンなどの巨大成分を含む場合もあり、これら尿蛋白の比率が糸球体透過選択制の指標として用いられる。また、近位尿細管のタンパク再吸収障害による尿細管性蛋白尿では、<math>\beta 2</math> ミクログロブリン、<math>\alpha 1</math> ミクログロブリン、R B P、リゾチーム等の低分子タンパクが主成分をなし、アルブミンの比率は少ない。</p>				